



頻繁に訪問する発電所はバンコクの南東、車で約2時間のラヨン市にある。

ここに向かう国道の脇にいつも気になる風景があった。

それは小高い丘に建つ僧院、そこには竜宮城の形をした寺門があり、続く長い石段がある。

その手摺に沿って金色の竜が這い上がり、その長い胴体のうねりは車窓からも、ひときわ目立ち見ることができる。

発電所訪問の帰り、ここに車を止めて、寺門をくぐってみた。

そこには、静寂が満ちており、修行中の少年出家僧が、黙々と庭掃除や、仏様の手入れ作業をしている姿があった。

それでも、この僧院の名前くらい知っておきたく、話しかけてみた。

すると、何人か寄ってきて、片言ながらも英語でどうにか意志は通えあえた。

そのときの笑顔やしぐさは、日本と変わらぬ、あどけない小学生や中学生であった。

僧院を後にして走るうち、夕陽は落ち、日はとっぴりと暮れてきた。

そして、車の前方に広がるバンコクの灯が大都会の週末の夜へとせわしく導いていた。